

## S. H. 社会システム学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

私は大学入学当初から、大学在学中に留学をしてみたいと漠然と考えていました。もともと洋画や洋楽が好きだったこともあり、海外の文化にとっても興味がありました。また、CASE の授業で、色々なネイティブの先生による授業を受けられたことも、海外に行って英語をもっと勉強したいと思ったきっかけの一つです。1 回生の夏ぐらいから本格的に留学を考え始め、正規の科目を現地の学生と受けられることに魅力を感じ、協定留学を目指すようになりました。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

協定大学に出願するために、IELTS か TOEFL のスコアを取得する必要がありました。私は、TOEFL は受験せず IELTS の勉強だけをしていました。私が同女で受けていた CASE の授業の他に、IELTS の対策本を 1 冊買い、一通り問題を解いて傾向をつかむようにしました。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

語学の勉強は、学校の課題以外は特に何もしていませんでした。ビザ申請の手続きに時間がかかると聞いたので、2 月上旬にはビザ面接を受けに行き、早めに取得できるようにしました。時期によっては混むこともあるので、早めにビザ申請の手続きをする事をお勧めします。

#### ④ 現地到着後

語学研修期間中は、ホストファミリーの家にホームステイをしていたので、ホストファミリーが空港まで車で迎えに来てくれました。翌日には、語学研修先でオリエンテーションがあり、レベル分けのテストをしたり、教科書を買ったり、施設内の説明を聞きました。

#### ⑤ 語学研修期間

##### ◆ 語学研修先の施設・環境について

オレゴン州ポートランドの Lewis and Clark College に通っていました。語学研修を受けていた時期が夏休み期間中だったため、学校に通っていたのは ESL を受講する留学生だけでした。大学内の設備も整っており、私は授業後に図書館をよく利用していました。私が行ったときは、クラスの国籍は 8 割がアラブ系の生徒で、残りの 2 割がアジアからきた留学生でした。日本人が少ない環境で英語を学ぶことができたので、とてもよかったと思っています。クラスの人数も少人数で、1 クラスあたり 7～15 人ぐらいでした。

##### ◆ 授業内容、課題、試験

授業は、3 つあり Writing のクラスと Communication のクラス (Listening と Speaking)、Literature のクラスを履修していました。課題は毎日出されましたし、どの授業でも積極性や自分の意見を求められました。試験は、中間と期末の 2 回で、テスト前はとても忙し

かったです。

## ⑥ 正規科目履修期間

### ◆ 大学の施設・環境について

大学の図書館は基本的に 24 時まで開いており、とても便利でした。また、難しい授業には Tutor をつけてもらえたり、ライティングセンターで自分の書いた文章を添削してもらえたりと、学習する環境としてはとてもよかったと思います。また、ジムも日曜日以外は開いていたので、運動不足解消のために利用していました。

### ◆ 履修科目

#### ・ English as a Second Language (ENG 103)

留学生必修の授業でした。エッセイを書くのが中心の授業で、Writing 力と語彙力強化のための授業です。

#### ・ Introduction to American Culture (INT 130)

この授業も留学生の必修科目でした。アメリカの文化を色んな視点から学ぶことができます。女性の権利や、アメリカの政治について知ることができ、とても興味深い授業で毎回楽しみでした。

#### ・ Public Speaking (COMM 100)

この授業は必修ではありませんが、留学生は全員履修していました。プレゼンテーションや即興スピーチをたくさんする機会がありました。

#### ・ Cultural Anthropology (ANTH 120)

文化人類学の授業です。色々な地域の文化や価値観について知ることができて、とても勉強になりました。

### ◆ 授業、レポート、定期試験

どの授業でも課題がほぼ毎回出されました。Cultural Anthropology の授業では、毎回 Reading の課題が出されていましたし、クイズも何度かある他に、定期テスト 2 回、グループプレゼンテーションなどもありました。ESL の授業は Research Paper が期末の課題として出され、American Culture と Public Speaking では Final Presentation が学期末にありました。

## ⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

COSMOS という International club に入っていました。ハロウィンパーティーやディズニーの映画を皆でみる Disney night などイベントがたくさんありました。

## ⑧ 現地で住まい

### ◆ 語学研修期間

語学研修期間中はホームステイをしていました。Mary Baldwin University では寮に入ることが決まっていたため、ホームステイも経験してみたいと思い、ホームステイを選びました。語学研修先の大学が提携しているホームステイ紹介サービスの会社に申し込んで、ホームステイ先が決定しました。食事は朝と昼は自分で作り、晩ご飯はホストマザー

が作ってくれる事が多かったです。

#### ◆ 正規科目履修期間

Memorial という寮に留学生はみんな住んでいました。2 人一部屋で、トイレやシャワールーム、キッチンなどは共同で使いました。ほとんどの留学生は、アメリカ人のルームメイトと一緒に住みます。食事は毎日 3 食学校で食べ、キャンパス内のカフェかダイニングホールを利用していました。

#### ⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は基本的に旅行をしたり、アメリカ人の友達の家泊まったりしている留学生が多かったです。Fall break には、カナダの親戚の家へ訪れ、観光に連れて行ってもらいました。Thanksgiving break には寮を出なければいけなかったため、フレンドシップファミリーの家泊めさせてもらいました。アメリカの伝統的な祝日を、フレンドシップファミリーと一緒に祝いする事ができ、本当に良い経験ができました。秋学期が終わってから、日本に帰るまでの期間はワシントン D.C.やフロリダ、シアトルなどを旅行しました。

#### ⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学中は留学の事だけに集中しようと思っていたため、何もしていません。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかった事は、旅行や学校のさまざまなイベントです。長期休暇や週末を利用して、今まで行って見たかった色々な場所に行く事ができました。アメリカだけでなく 1 番行って見たかったカナダも旅行できたことが、私の中でとても思い出に残っています。また、MBU では、月に 1 回映画が無料で観られるなど、楽しめるイベントがよく企画されていました。他にも生徒に対するイベントがたくさんあり、勉強の息抜きになりとても楽しかったですし、MBU の魅力の 1 つだと思います。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私はスピーキングに苦手意識があったため、なかなか周りの人と上手く話せないことがずっと悩みでした。特にアメリカに来たばかりの語学研修期間はつらかったです。自分の意見を言う事も苦手であったため、語学研修の時に、他の留学生はディスカッションなどで自分の意見をどんどん発言していくのに対し、自分は圧倒されて何も言えなくなるばかりで悔しかったです。グループでの活動では自分がグループの足を引っ張っている気がしていました。上手く話せなくても、積極的に行動していく事が大事だという事を学びました。

## III. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は留学生に対するサポート制度が整っているところです。ライティングセンターやチューターなどの授業支援制度が充実しており、よく利用していました。アドバイザー

一の先生や他の教授の方も留学生に理解のある方が多く、安心して留学生活を送ることができました。また、悪かった点はダイニングホールの食事の味付けです。パターン化されていて、飽きました。

## ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持参することをお勧めします。授業でエッセイなどを書く機会がとて多いため必要です。また、洗濯ネットや基礎化粧品、日本食も持って行ってよかったです。

## ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

色んな人の喋る英語を聞くことで、リスニング力は上がったと思います。また、とにかく色んな授業でエッセイの課題が多かったので、英語で意見をまとめ文章を書くことにも慣れました。

## ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

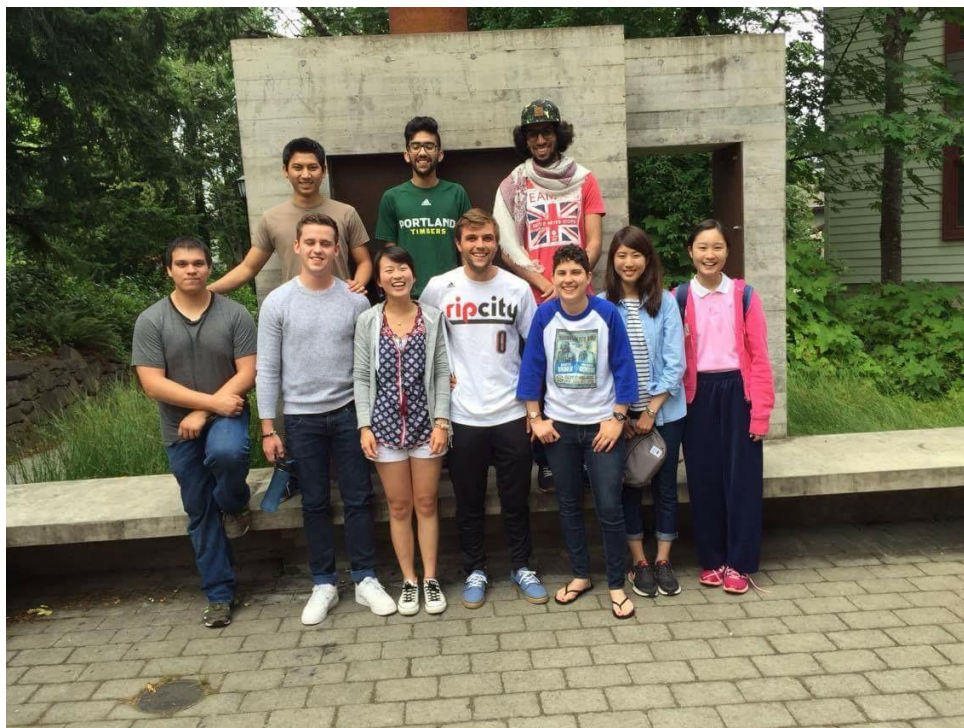
留学がしたいと思っているなら、ぜひ挑戦してみてください。私も、以前に留学経験はなく、初めての海外長期滞在のため最初はとても不安でしたが、行ってしまえばどうにかあります。私は、この留学を通して本当にたくさんの人と出会う事ができました。また、留学をすることで、日本では経験できないことをたくさん経験する事ができます。社会人になると、なかなか留学することはできないと思うので、思い切ってチャレンジしてみてもいいです。迷っている人も勇気を出して行動を起こしてみてください。応援しています。

# IV. 将来の目標

## ① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の目標について具体的には決まっていますが、海外と関わりを持つ企業に勤める事が夢です。

## V. 写真



アメリカ独立記念日の日に、語学研修先で BBQ をしました。その時の写真です。



MBU の伝統でもある、Junior dads というパーティーです。Junior でなくても、留学生は皆参加する事ができます。

## Y. S. 英語英文学科・4 年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

大学生のうちにしかできない大きなチャレンジや新しい環境で今までに味わったことない体験をしてみたかったこと、そしてもちろん英語力を伸ばしたかったことが大きな理由です。入学して 1 年目は、正直周りのクラスメイトの英語力に圧倒され、特にネイティブの先生の授業はただ聞いているだけの受け身の姿勢でした。そして、その当時は留学について考えもしていませんでした。しかし、本学の E.S.S 部に所属し、週末に神社仏閣で外国人観光客に英語でボランティアガイドをする活動や、留学生との交流イベントに参加するなど、積極的にインターナショナルなアクティビティーを通して次第に、語学や異文化に興味を持ち始めました。そして、まず 2 年生の春休みを利用して本学のイギリス語学研修に参加しました。このプログラム期間中、約 1 か月間本学の約 20 人の学生と一緒に語学学校に通い、ホームステイをしました。他国のクラスメイトやホストファミリーとのコミュニケーション、そして学校主催のスポーツ観戦、美術館めぐりのイベントや週末に友達と観光する機会を通して、さまざまな異文化体験をしました。この語学研修をきっかけに、ますます語学や異文化を学びたい意識やもっと長く留学したい気持ちが芽生え始め、長期留学できる協定留学を考え始めました。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

留学を考え始めた時期がちょうど留学募集時期の 1 年前だったので、まず留学条件スコアに満たすために IELTS のテキストを買って勉強しました。IELTS を選んだ理由は、ペーパー式のテスト形式で面接も面接官と一対一のスタイルであることです。パソコンを使って受ける TOEFL よりも自分に向いていると思いました。テキストを買ったものの、テキストを使って問題を解くのが苦手な私は正直あまり使わなかったです。ちらちらと気が向いたときにテキストを開け、問題を解くというよりかはどんな形式で問題が出題されるのかを各パートで確認しました。目標スコアに達するために特に力を入れたことは、日々の英語の授業課題をコツコツこなしたことです。どんなテキストよりも、これが私にとって一番効果的であったような気がします。あと、息抜きに洋画や洋楽をよく聞いていました。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

年が明けてすぐに、ビザの申請手続きに取り掛かりました。パソコンでビザ申請のホームページを開いて、画面の指示に従って各質問に答えました。個人情報や留学先情報などいろいろ項目があったので、すべてタイプするのに意外と時間がかかりました。たくさんの時間を費やしましたが、記入例などを参考にしながら一つずつこなしていくと、自分の力だけでも申請手続きをすることができました。パソコン上でビザ面接の予約を取り、指定した日に領事館へ行きました。面接後、思ったよりも早くビザが届いたので安心しました。その他、病院に行きワクチンの接種もしました。アメリカは他の国とくらべてヘルス

フォームが厳しいのでたくさんのワクチンを打ったのを覚えています。また、同じ種類のワクチンを数回接種しないといけない場合もあるので出発日に合わせて余裕をもって病院に行くことをお勧めします。留学する際に必要なビザやその他の書類がすべてそろった後に、航空券を手配しました。必要書類の準備と並行に、語学勉強もしました。授業が終わってから留学前に 2 か月くらいの休み期間があったのでその時間を利用して、少し英語に触れる努力をしました。大学の授業で使っていたテキストをもう一度読み返したり、リスニング力をつけるために英語の曲を聴いたり洋画を見たりしました。

#### ④ 現地到着後

語学学校は協定留学（MBU）と同じ Virginia 州にしました。同じ州ですが、MBU から車で 2 時間ほど離れたところの Fredericksburg という地の語学学校に通っていました。ワシントン DC のダレス空港から車で 1 時間ほど離れた場所にあるので、事前にタクシーの手配をしました。空港について、到着ゲートを出るとすぐに出迎えの運転手の方が待っていたので迷うことなく見つけることができました。次の日から、語学学校のオリエンテーションに参加しました。初日なので緊張もありましたが、語学学校の先生全員が優しくフレンドリーで、語学学校の決まりや各手続きの仕方について丁寧に教えてくれました。オリエンテーションの日には、クラス分けのテストも受けました。そして、次の日からクラスに参加しました。

#### ⑤ 語学研修期間

##### ◆ 語学研修先の施設・環境について

Fredericksburg にある ESL に通っていました。Fredericksburg はワシントン DC などのように大都市ではありませんが、語学学校から車で約 10 分離れたセントラルパークには大きなショッピングモールや映画館、レストランなどがあり、また歴史的な街として学校から歩いて行ける伝統的なダウントOWNもありました。晴れた日に散歩しているとよくリスを見かけ、緑もたくさんあるところで治安の良い落ち着いた雰囲気のある街でした。語学学校の周りには、カフェ、レストラン、スーパーなどいくつかのお店もあり、便利なところに学校がありました。また、この ESL は道を挟んですぐ隣に大学があり、大学の施設も使うことができました。特に図書館は、授業内で行く機会もあったり、また課題をやったり自主学习としてもよく利用していました。そのほかにも、授業後気分転換にクラスメイトと一緒にジムに行って体を動かしたりもしました。語学学校と大学がとなり合わせのところに位置しており、大学の施設も使うことができるので大変便利でした。

##### ◆ 授業内容、課題、試験

授業は月曜日から木曜日は朝 8:30 から昼休憩を挟んで 15:45 まで、金曜日は午前中のみ授業がありました。コース別に受ける授業数や授業も異なり、わたしは留学準備のアカデミック英語コースに参加しました。午前中は、パソコンを使って自主学习する時間やリスニング、スピーキング力を強化する授業、文法の授業がありました。そして、午後からはライティング、リーディングの授業でした。どのクラスも約 1 時間でちょうど良い授業

時間でした。この語学学校は全体的に生徒数が少なく、先生との距離感も近くてとてもアットホームな感じで授業を受けることができました。また、日本人も比較的少なく、国、年齢、性別関係なく、さまざまなクラスメイトに出会うことができました。語学学校期間中、日本人が私一人だけの時もありました。また、レベル別にクラスが分かれているので、授業も受けやすかったです。しかし、初めのころは周りのクラスメイトの英語力に圧倒されました。とくに、スピーキングです。授業中、クラスメイトは質問や意見があるとその場ですぐに発言するので、その形式に慣れるのにまず苦戦しました。クラスメイトの積極的な授業態度を見習い、休憩時間に周りのクラスメイトや先生と話すことをきっかけに徐々に緊張感もほぐれ、自然と発言するようになりました。課題は、毎日各授業で出されました。特に、読むのが苦手なわたしはリーディングの課題に多く費やしました。一番大変だった課題は、リサーチペーパーでした。大学の研究課題の練習として、自分で興味のある研究テーマを決めてそのテーマに関する参考資料を探し読んで、ペーパーを完成させるのはとても時間がかかり大変でした。しかし、そのおかげでライティング、リーディング力が伸びたと思います。試験は毎月最終週にあり、そのテストに合格すると次のレベルに進級できました。

## ⑥ 正規科目履修期間

### ◆ 大学の施設・環境について

MBU は、小さな街の中にあり自然いっぱいの丘の上に建っている学校です。授業の建物、ダイニングホール、寮が同じキャンパス内で歩いてすぐのところにあり徒歩で移動できるので大変便利でした。また、キャンパスからレストランやカフェ、アンティークショップなどのいくつか小さなお店があるダウンタウンまで、歩いて数分で行けます。よく、授業が終わってからショッピングをしたり、おいしいジェラート屋さんに行ったりもしました。MBU はたいていどの建物でも Wi-Fi 環境が整っているので、自分の携帯やパソコンでインターネットなどを接続することが出来ました。たまに、Wi-Fi 接続が悪くなる時もありましたが、基本いつでもつながりました。自分のパソコンも持っていきましたが、図書館にも自由に使うことのできるパソコンがあったのでそれを使って勉強するときもありました。図書館は平日と日曜日は夜遅くまで開いているので、課題の多いときやテスト期間はよく利用していました。キャンパス内も外も MBU の周りは落ち着いて、先生や学生もフレンドリーでまたダウンタウンであった地元の方も気さくに話しかけてくれました。身の危険を感じたことは特になく、治安の良い街でした。

### ◆ 履修科目

#### ・ American Culture

インターナショナル対象の少人数クラスで、アメリカの歴史から現在のアメリカ政治や問題（大統領選挙、LGBT）について学びました。また、授業内で数回フィールドトリップがあり近くの美術館などに行ったりもしました。

#### ・ English as a Second Language



インターナショナル生対象の少人数クラスで、主にボキャブラリーや Writing（エッセイ、リサーチペーパーの書き方）について学びました。毎週、単語の小テストがあり、またいろいろな種類のエッセイを書く課題もありました。

・ **Public Speaking**

週 2 回の授業で、大教室での講義授業と、少人数の LAB 授業がありました。インターナショナル生対象ですが、現地の学生も履修出来るので一緒に受けました。この授業では、主にプレゼンテーションスキルについて学びました。

・ **Cultural Anthropology**

現地の学生と一緒に授業を受けました。アカデミック科目なので、授業についていくのに必死でしたが、明るい先生と授業に積極的な学生が多く、先生と学生の距離感が近くクラスの雰囲気がよかったです。

・ **Applied Piano**

週 1 回の 30 分個人レッスン授業です。自分のピアノレベルに合わせて、担当の先生とマンツーマンレッスンを受けることができます。学期最後の発表に向けて、自分が選んだ課題曲を暗譜で弾けるように、授業外に練習室でよく練習していました。

・ **Intermediate Japanese**

日本語授業の TA をしました。一緒に授業を受けて学生の質問に答えたり、宿題や小テストのチェックのお手伝いをしたりしました。また、日本の文化や歴史のプレゼンテーションもしました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

留学生向けのインターナショナルクラブの COSMOS に入部しました。このクラブには留学生全員が参加しました。現地の学生と留学生がほぼ半々の人数で、毎週水曜日に集まり、映画を見たりハロウィンパーティーなどのパーティーをしたりしました。また、10 月に MBU の伝統イベント Apple Day の日にはブースを出してチョコフォンデュを売りました。COSMOS は、留学生以外に現地の学生とも交流できて楽しかったです。また、クラブ以外に毎週月曜日と水曜日に数人の留学生と一緒に ZUMBA のレッスンにも参加しました。初めて ZUMBA に挑戦し、最初はついていくのに大変でしたが徐々に慣れていき、体を動かす良い息抜きが出来て楽しかったです。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

語学研修中の初めの 1 か月間だけ同じ語学学校に通うクラスメイトをルームメイトとして隣にある大学の寮にいました。本当は、この寮に語学研修中ずっと滞在する予定でしたが、5 月から大学生が夏休みに入りほとんどの学生が長期期間、寮を離れることになったので急ぎょ、5 月からホームステイに変わりました。ホストファミリーはとてもフレンドリーでみんなやさしく、また過去にも何人かの留学生を受け入れた経験があるので慣れていました。ホストマザーは料理上手であり、そして音楽好きな家族であったのでわたしと趣味が似ていて、会話が弾みました。また、家から語学学校までが近かったので、毎日歩いて通って

いました。5 月から 8 月末までホームステイをし、そのあと協定大学の MBU では中国人のルームメイトと一緒に寮生活をしました。二人で生活するには十分な広さの部屋で、また留学生全員同じ寮で同じ階にいたので毎日授業外にも寮で会い、気軽におしゃべりしたり、また時々みんなと一緒にキッチンで料理をしたりもしました。各部屋には、机、ベット、タンス、ヒーターがありましたがトイレとシャワーは、みんなと共用しました。寮、教室、ダイニングホール、図書館が歩いてすぐのところにあつたので大変便利でした。毎食、すぐ近くのダイニングホール、もしくは少し離れたカフェのどちらかで食べました。ダイニングホールは二つのメインディッシュから好きなほうを選択し、あとはサラダバーやドリンクバーがあり好きな量だけ自由に取り取る形でした。ハンバーガーやピザなどのアメリカンなときもあったり、イタリアン、メキシカン、アジアンだったり、さまざまな料理がありました。初めはほとんどダイニングホールに行っていました。途中からはレパトリーの違うカフェでサンドイッチやサラダを食べたりもしました。食後に、デザートやアイスをよく食べていました。

#### ⑨ 長期休暇の過ごし方

語学学校に長く通っていたので語学学校を卒業してから協定留学までの間は約 1 週間しか休みがありませんでしたが、その間に家族が日本から遊びに来ました。一緒に、NYC、ボストン、ナイアガラ滝を観光しました。天気にも恵まれて、家族とともに充実した楽しい旅行が出来ました。また、協定留学中には 5 日間くらいの Fall break と Thanksgiving break がありました。Fall break 中は、語学学校で知り合った友達と一緒に Philadelphia に旅行に行き、Thanksgiving break 中はホストファミリーの家に遊びに行きました。その他にも、MBU ではインターナショナル生向けにフレンドシップファミリーを紹介してくれて、そのファミリーと週末に会って一緒にご飯を食べたり、遊びに連れて行ってくれたりもしました。学期末テストが終わってから帰国するまでの間は、MBU で知り合った友達の家やフレンドシップファミリーの家に遊びに行った後、語学学校先にも訪れ、語学学校の友達と会ったり、ホストファミリーの家にも行ったりしました。クリスマスはホストファミリーと一緒に過ごしました。

#### ⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

4 回生で留学をしたので、周りの同学年の子とは就職活動時期がかなりずれました。留学前に就職説明会に参加したりもしましたが、就職活動は帰国してから始めました。留学中に、たまたま MBU 学生のキャリアサポートセンターの方と仲良くなったので、その方と一緒に就職活動についてお話ししたりもしました。

## Ⅱ. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

クラスメイト、先生、ホストファミリーなどいろいろな人と留学中出会い、お話ししたことが一番楽しかったです。留学中、さまざまな国出身の人たちと交流して、お互いの文化を

紹介したり、新しい文化を学ぶことはとても新鮮な体験でした。MBU のインターナショナル生とは、一緒に各国の料理を作って食べたり、また、現地の友達ともクッキーを焼いたり、授業後に映画を観たりしました。時間のある週末には、ホストファミリーの家に遊びに行ったり、友達とダウンタウンに行って、朝の市場を覗いたり、ランチを食べたりもしました。日本と周りの雰囲気も全く違うので、伝統的な建物、大きなスーパー、おしゃれなカフェなど、新しいものを見つける面白さや楽しさを味わうことが出来ました。

## ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

一番楽しかったことがいろんな人とおしゃべりすることでしたが、同時に一番苦勞したこともコミュニケーションです。初めて訪れる国のアメリカで初めての長期留学など何もかもが初めて尽くしの目まぐるしい毎日を過ごしていました。特にクラスメイトのスピーキング力に圧倒され、授業についていくのに必死でした。しかし、徐々に授業の雰囲気にも慣れていき、クラスメイトに積極的に話しかけるようになり、ホームステイに移ってホストファミリーとの会話に参加するようになってから少しずつ話せるようになりました。

## ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカでは、ほとんどのお店でクレジットカードが使えるので現金を持ち歩かない人もいました。実際、私もクレジットカードをよく使っていたので現金はそれほど使いませんでした。レストランに行って、量が多く食べきれないときは、お店の人が持ち帰り用に Box をくれるので、それに残りを入れて家に持ち帰っていました。NYC やワシントン DC などの大都市は、地下鉄やバスなど公共交通機関が発達していて便利ですが、中小都市は車の必要性を感じました。歩いている人や自転車に乗っている人をあまり見かけないときもあり、アメリカは車社会であるなと感じました。

# Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

## ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

MBU は小さな規模の大学なので、先生と生徒の距離感も近くアットホームな雰囲気の大学でとても過ごしやすかったです。現地の学生も、私たちインターナショナル学生に優しく接してくれました。特にオリエンテーションのときは、アンバサダー学生がいろいろ大学の施設や授業の履修についてなど詳しく教えてくれたり、また担当の先生もフレンドリーに話しかけてくれるので、何かわからないことがあった際には近くの先生や友達に気軽に尋ねることが出来ました。さらに、学生のために映画デーやドリームキャッチャーを作るアクティビティー、ハロウィンパーティーなどのイベントがたくさんありました。授業、課題で毎日忙しいですが、息抜きにイベントに参加しました。MBU の周りには、大きなショッピングモールなどはありませんが大学内で毎週さまざまなイベントがあるのでキャンパス内だけでも十分楽しめました。しかし、小さな街なので公共交通機関はよくありません。大学から歩いて近くのところには駅がありますが、本数が本当に少なかったです。なので、どこかに行く際は車を持っている MBU の友達に頼んで買い物に連れて行ってもらった

り、大きな駅まで送ってもらったりもしました。

## ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは、持っていくことをお勧めします。語学学校、MBU どちらも学校内に自由に行うことができるパソコンがありましたが、やはりエッセイを書く課題などが多く、パソコンを使う頻度が高いので自分のパソコンを持って行ったほうがいつでも使えて便利です。また、日ごろから使っている自分の肌に合った化粧水、乳液などは日本から持っていきました。あと、持って行って便利だったものは洗濯ネットです。アメリカの洗濯機は威力が強くて、乾燥機も使うので衣類が傷みやすいです。洗濯する際はいつも洗濯ネットに衣類を入れていました。

## ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前よりも、リスニング力、スピーキング力はついたと感じます。英語を常に聞く環境にいたのでリスニング力は一番伸びたような気がします。スピーキングに関しては、語学学校にいた初めころは特に苦労しましたが、周りのクラスメイトの積極的な授業態度を見習い徐々に、自分から話しかけるようにしました。その成果で、自然と友達との会話も弾み、話す緊張感もなくなりました。帰国してからも、留学中に向上した英語力が落ちないようになるべく英語に触れる環境を作っていきたいと思います。

## ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に興味があったら、ぜひ早めに準備し留学することをお勧めします。私の場合 4 回生の春から留学しました。正直、就職活動と時期がかぶっていたのでどちらを選択しようか迷いましたが、留学をして本当に良かったと思っています。語学力向上以外に、さまざまな国の人たちとコミュニケーションをとり、異文化を体験し、新しい発見や刺激をたくさん受けました。クラスメイト、先生、ホストファミリーなどたくさんの人たちと素晴らしい出会いをし、今まで味わったことない貴重な体験をすることが出来ました。

# IV. 将来の目標

## ① 今後の進路、将来の目標・夢

今、就職活動を行っています。周りの同学年の人たちと比べてかなり就活時期が遅れていますが、あきらめずに自分に合った職に就けるように頑張ります。

## V. 写真



語学学校のクラスメイトと先生。通っていた語学学校は、月によってアジア人が多い時もあり、ブラジルやサウジアラビア、キューバなどほかの国から来たクラスメイトもいて、いろいろな国の人がいました。少人数でアットホームな語学学校で楽しかったです。



語学研修中にステイしていたホストファミリー。やさしくておもしろいホストファミリーで、本当の家族のような存在でした。音楽や映画好きの家族で毎日にぎやかでした。





MBU 伝統行事の Junior Dads に同じ国際学生と先生、フレンドシップファミリーと一緒に参加しました。ドレスアップして指輪交換、スイーツを食べたり、踊ったり、アメリカならではのパーティーを楽しみました。



ESL の先生の家で、国際学生全員とクリスマスパーティーでおじゃましました。一緒にクリスマスツリーをデコレーションしたり、クリスマス料理を食べたり、ジンジャーブレッドをつくったり、トランプゲームもして楽しい時間を過ごしました。